



## 「どこの子どもですか？」

みこころの月に聖心の子どもになる

校長 Sr.大山 江理子



アジサイが美しく咲いています。今年のみこころの月のプラクティスは「笑顔とあいさつでつながろう」となりましたが、この実行には登下校のマナーがかかわります。ある日のファーストステージ朝礼で「どこの子どもですか？」という問いについて考えました。

まず、「ここはどこですか」という質問に答えてもらいました。学校、初等科、聖心、全部正解です。それから、東京とか日本とか地球、一方、講堂の中、舞台の上、舞台の下とも答えられます。考え方によって答えが変わっていきます。そして、場所によってとるべき行動も変わります。舞台の上と下では、やること、やって良いことと良くないことも違います。大人には当然のことですが、1年生は少し不思議そうに、4年生は当たり前ですという顔で聞いています。

さて、子どもたちが朝、目覚めて、まだパジャマを着ているときは、それぞれの家の子どもです。制服を着て、「行ってまいります」と言って家を出ると聖心の子どもになっていきます。一人の子どもが、自分のいる場所によって、〇〇さんの家の子どもであったり、聖心の子どもであったりします。家を一步出ると、周りから聖心の子どもと見られ、聖心の子どもであることを期待されます。家から学校までの道のりでは、たとえ一人であっても聖心の子どもとして振る舞うことを求められます。どこの子どもですか？というの重要な問いになります。

学校に来れば、皆で聖心の子どもとして生活します。家を出てすぐ、一人で聖心の子どもとしてきちんと行動することは、少し大変かもしれません。家から学校までは、子どもの中でアイデンティティの切り替わりの時間とも言えます。それでも、期待されています。そこで、もし、私、シスターが聖心のことを良く知らない女の人だったら、皆のことがどのように見えるかと話しました。制服がとてもかわいい、とても仲が良さそう、でも周りの人のことを考えることはあんまりできていないのかな？あの子どもたちは、どこの子どもですか？

運動会の開会式では聖マグダレナ・ソフィアの言葉を暗唱します。神さまの愛を学校で教えてもらった子どもたちは、まわりの人みんなに分けることではないかという内容です。子どもたちには、聖心の子どもの特徴としてこの言葉をいつ、どこでも実行できるようになってほしいと願っています。みこころの月にはなおさらです。それぞれのご家庭のお子さんとしても、家にいるとき、外出したときと、場面によって求められる振る舞い方が異なることではないか。毎朝、家を出るときに、聖心の子どもへの切り替えがすぐできると良いと思います。ぜひ声をかけて送り出してください。どこの子どもですか？という問いにふさわしく応えられるように。

### 6月の予定

- 3日(月) 1年・転入・編入生保護者会
- 4日(火) ～7日(金) 5年校外学習(清里)
- 5日(水) 金曜時間割  
6年美術館見学(4～6限)
- 6日(木) 6年英単語検定
- 7日(金) 家庭学習日(私学一日研修会)
- 8日(土) 第1回初等科入試学校説明会
- 13日(木) 一日学校参観日  
下校グループ親子集会(4限)

### ～みこころの月～

- 14日(金) 2年自然教育園(1～3限)
- 18日(火) 6年まとめのテスト①
- 19日(水) 初1年入試・初5年転入、編入試験対象授業公開  
不審者対応訓練(15:10～)
- 21日(金) みこころの祝日(ミサ・奉仕活動・映画鑑賞会)
- 24日(月) ～28日(金) 5・6年水泳
- 29日(土) 保護者講演会  
第1回5年転入・編入学校説明会

◎21日(金)のミサには、1年生と各学年の転入・編入生の保護者の方もご参加いただけます。ご参加の方は、当日8:50までに聖堂ギャラリーにご着席ください。

◎1、2年生も不審者対応訓練に参加します。下校時刻が15:30過ぎになります。

## 高きを目指す人に

教頭 吉岡 真左美

5月25日に、聖マグダレナ・ソフィア・バラを記念して運動会が行われました。今年は、マザーバラの祝日と運動会が同日となり、まさに競技・演技を通して自分の努力をお捧げすることを意識する機会となりました。

真夏のような暑さで熱中症を心配するほどでしたが、子どもたちは練習や準備をしてきた成果を発揮しようと、一人ひとりが力を尽くして頑張りました。勝つことやできるようになることは喜ばしいことですが、経験を重ねると、そこに至るプロセスが重要で、それにより得られる達成感によって自分に自信をもち、次も頑張ろうという主体的な姿勢につながっていくことに気づくようになります。マザーバラは、学習や仕事に懸命に取り組み大切さを説いていらっしゃいますが、そこからより高きを目指す力が伸びていくことを願っていたのだと思います。高きを目指そうとする人は、自ずと自分を見つめ、視野を広くもつようになります。担当の仕事に責任をもって取り組んだ高学年の児童にとって、運動会は有意義な学びの機会になったと思います。

視野が広がると、様々なことに気づくようになります。運動会で、シスターや先生方のみならず、事務室や校務の方々、母の会幹事の方々、声援を送ってくださったご観覧の皆様など、多くの方々に支えていただいたこと。毎日の通学でお世話になっている交通機関の方々や、一緒に電車やバスに乗り合わせた方々に配慮していただいたりご面倒をおかけしたりしていること……。私たちは、そのような方々にどう応えるべきか。それは、“Be wise. Be creative.”を行動で表すチャンスでもあると思います。一つの行事を終えて、自分を振り返り、次にどんなアクションをおこすとよいかを考える機会をもつことができればと願っています。



## 聖心女子大学 災害復興支援チャリティデーのお知らせ

6月15日(土) 12:30～16:00 聖心女子大学マリアンホールにて、災害復興支援チャリティデーが開催されます。

この催しは2012年より「東北を忘れない。これからも、ずっと。」というスローガンのもとで行われており、今年で8回目を迎えます。バザーの収益は、東北に限らず広く災害地域を対象にし、聖心女子大学および聖心姉妹校が主催する復興支援のための活動資金となります。

当日は、聖心姉妹校、卒業生、聖心会などによるミニバザー、震災に関する展示、東北物産展などが行われます。初等科からは北海道地震、西日本豪雨災害、インドネシアの津波などへの支援について展示報告します。また、手話クラブが中高等科と共に公演発表をします。公演時間は13:45～14:00の予定です。

ぜひご参加ください。初等科生は制服着用の上、保護者同伴をお願いいたします。

みこころの月のプラクティス  
笑顔とあいさつでつながろう  
—あなたの隣人はだれですか?—

